

# 防災コラム

#014



名前：纈纈 友久

活動地域：中濃地域

卒塾期：3期

連絡先：koketsu.one@gmail.com

## 【防災は楽しく学ぶ】

私は、自分の娘が通っていた小学校のPTA役員から、御嵩町防災アカデミーという防災講習会に誘われたことがきっかけとなり防災士になりました。

御嵩町防災アカデミーで講師を務めていた岩井慶次さんの生き方に惚れ、岩井さんから当センターのげんさい未来塾に誘っていただき入塾しました。

卒塾後は、お世話になった御嵩町への恩返しもこめて、平成30年から御嵩町防災アカデミーに関わるようになり、今年で7年目です。当初は【御嵩町の過去の災害】に関する講義を担当していましたが、現在では【土砂災害や地震・津波への備え】の講義も担当しています。

その他にも講師の補助や、岩井師匠の不在時には、簡単な事務作業もやっています。

防災アカデミーでは、いろんな専門家の先生方と知り合うことができ、様々な講義を見ることができるので役得です！

最近では、御嵩町内からも講師依頼が来るようになりました。

- ・上之郷小学校：【親子防災授業】
- ・生涯学習課：【御嵩町成人講座】
- ・御嵩町社会福祉協議会：【災害ボランティア講座】

今後は御嵩町にこだわらず、いろんな町で楽しく活動できるといいな！と考えてますのでぜひお声がけください。



令和6年8月 御嵩町防災アカデミー

# 防災コラム

#013



名前：北平 智久

卒塾期：4期

活動地域：飛騨市、飛騨地域

連絡先：t-kita@soleil.ocn.ne.jp

## 【飛騨市防災リーダー養成講座での講師を通じて自分自身も学ぶ】

私が県防災リーダー育成講座を受講したのは平成28年です。その当時、飛騨市内で防災士を取得する場はありませんでした。そこで私は飛騨市長に「飛騨市内でも防災の学びの機会を作りたい」と相談し、平成30年度から飛騨市でも講座を行うことができるようになりました。

私は令和元年度第2回飛騨市防災リーダー養成講座から継続して講師を担当しています。令和元年度は避難所運営ゲーム（HUG）について、岩井コーディネーターと共にアクションシートを使った講義を実施しました。

講師を担当することで、時間管理、受講生の理解度や反応、資料づくり、受講生の効果的な発表の機会づくり（アウトプット）など、多くの学びを得ることができました。

令和2年度はHUGだけでなく、「自主防災活動と地区防災計画・学校を基軸とした防災活動」の2講義を担当しました。後述の講義は、げんさい未来塾で取り組んだことの実践発表の場ともなりました。令和3年度には災害図上訓練（DIG）の講師を担当しました。

このように、多様な講義を担当することで、自分自身が一番学ぶことができたと考えています。



飛騨市防災リーダー養成講座

# 防災コラム

#012



名前：磯方直美

卒塾期：4期

活動地域：西濃(主に海津市)

連絡先：isokata\_naomi@bell.ocn.ne.jp

## 介護施設への伴走支援

私は民生委員として地域の防災に関わってきましたが、興味があった介護施設に関する防災とは、少し離れた所にいました。

そこで、令和元年度にげんさい未来塾へ入塾し、大学教員の指導のもと、避難確保計画の見直し等、介護施設の防災対策について学びました。

分からないことも多かった半面、民生委員として経験した「介護初任者研修」や、地元の介護施設で開催された「地域密着会議」の知識がとても役に立ちました。

令和5年7月には、県の伴走型防災支援事業に参画し、可児市の介護老人保健施設で、避難確保計画の策定や見直しに向けた実地研修の講師を担当しました。

介護専門職からの質問に答えられるのか不安でしたが、げんさい未来塾の仲間と協力して、1つずつ対応することができました。

避難確保計画をもとにした避難訓練では、実際に話し合いながら動いてみる事で新たな気づきがあり、コミュニケーションの大切さが見えた訓練でした。

# 防災コラム

#011



名前：伊藤 三枝子

卒塾期：1期

活動地域：岐阜県全域

連絡先：chamo56chamo8@gmail.com

## 学校の安全を見直しましょう！

学校防災は、子どもたちや職員の安全を守るため、事故防止や災害対策など、様々な場面を想定して、適切な対策を講じられるようにする必要があります。

私が参画した県の「学校安全支援事業」では、学校ごとの状況に応じて、適した訓練を選んでいただけるようにしています。

例えば、自助を学ぶ「命を守る訓練」や「DIG（災害図上訓練）」、HUG（避難所運営ゲーム）」などの訓練があり、ゲーム形式で学んでいただくことができます。

そのほかにも「校内安全点検」や「避難所開設訓練」など、様々な支援があり、学校の特性に応じて、選んでいただくことが可能です。

私は、子どもたちや職員の命を守るための訓練を実りあるものにするために、テーマに併せて担当の先生方と丁寧な打ち合わせを行いながら支援事業を実施しています。

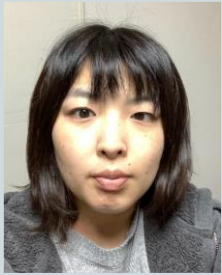
これからも「防災や安全」を身近に捉え、自ら考え、行動する方が増えるよう活動していきたいと思えます。



令和5年7月 学校安全支援事業

# 防災コラム

#010



名前：小林 睦

活動地域：西濃地域

卒塾期：4期

連絡先：sopura.5296.sing@gmail.com

## 防災を身近に感じる訓練！

私は現在、地域での防災出前講座や、「楽しく学ぼう」をモットーに、防災を身近に感じていただくため、ゲームを活用した防災研修を行っています。

また、高齢者福祉施設におけるBCP（事業継続計画）策定支援や、避難確保計画作成・見直しなどの「伴走型支援」も行っています。

私が支援に携わった高齢者施設では、施設で実施した避難訓練から得られた学びを、避難確保計画へ反映させる取り組みを行っていただきました。

これにより、施設の備えを充実させるだけでなく、施設で働いている職員1人1人にも災害を自分事として捉え、家庭の備えを見直してもらうなど、防災を身近に感じていただきました。

伴走型支援が終了した後も、施設が自らPDCAサイクルを活用し、訓練結果を次の計画へ反映が出来るよう、支援を行っています。

これからも様々なツールを生かして、防災を身近に捉えていただける講座や、伴走型支援を行っていきたいと思います。



令和5年8月 伴走型支援事業

# 防災コラム

#009



名前：高木 淳一

卒塾期：1期

活動地域：岐阜県内

連絡先：makidamatizukuri@yahoo.co.jp

## 「防災」を身近に！

私は幅広く防災啓発活動に取り組んでいますが、柱の一つに「土砂災害」を位置付けています。

令和5年6月11日に開催された、県砂防課主催の「砂防フェアinかいづ」では、講演会の講師として参画させていただきました。

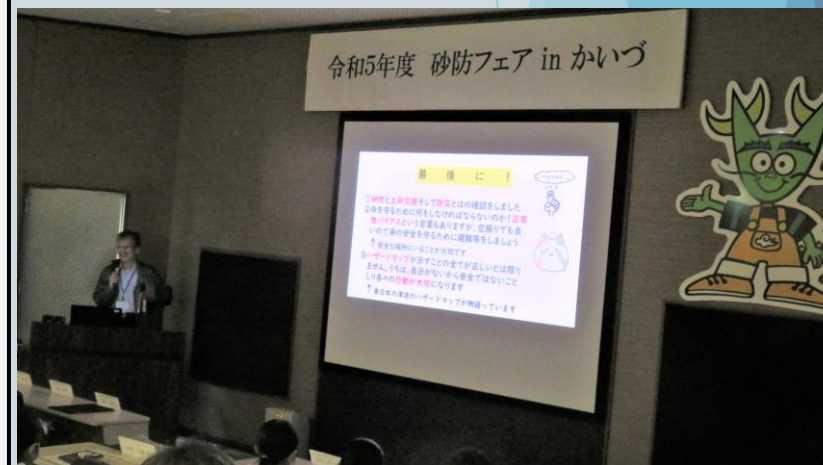
この講演会では、土砂災害ハザードマップ上のイエローゾーン（土砂災害計画区域）に住んでいる私の立場から、現実味のある「土砂災害のお話し」をさせていただきました。

受講者は、小中学生向け砂防ポスター表彰の受賞者である児童・生徒とそのご家族、約50名でした。

専門的な話を児童・生徒にも解りやすく伝えることは難しいですが、防災のハードルを下げ、皆さんに「防災を身近に」感じていただくことが私のモットーです。

このため、受講者の皆さんにどの様に伝わるのかを考え、どうすれば身近に感じてもらえるかを工夫しながらお話ししました。このような機会は、私にとっても良い経験になったと感じています。

皆さんも「防災を身近に」感じて、まずは自らの命を守るために考えてみませんか！



令和5年6月「砂防フェアinかいづ」

# 防災コラム

#008



名前：中村 佐記子

卒塾期：6期

活動地域：東濃地区（瑞浪）

連絡先：kikikanri@city.mizunami.lg.jp

## 防災にも女性の視点を！

私は、瑞浪市が開催した防災リーダー養成講座を受講後、防災士の資格を取得しました。2013年に結成された「みずなみ防災会」では、防災訓練や講話などの防災啓発活動を行っています。

防災にも女性の視点が重要ということから、2022年には「みずなみ防災会女性部会」を立ち上げました。

毎月テーマを決め、非常用トイレや非常食の試食などを題材に、女性視点での防災チラシづくりに取り組み、女性部会便りを発行しています。

避難所運営には、女性に限らず高齢者や障がい者、子育て家庭など、多様な方々への配慮や資機材が必要です。

そこで、瑞浪市と今後の避難所運営について話を進めていく中で、県の「女性等の視点を踏まえた避難所運営推進事業補助金」を活用した資器材整備の検討会議に参画させていただき、女性部会から市へ、女性視点を踏まえた必要資器材の提案を行いました。

これからの避難所運営は、資機材や物資を活かし、多様な被災者の背景に目を向け、寄り添いながら避難所の生活環境を整えることが大切です。

今後も、女性視点を踏まえながら、多様性に配慮した避難所運営や防災啓発活動を行っていきます。



令和5年「女性等の視点を踏まえた避難所運営推進事業」

# 防災コラム

#007



名前：藤村 祐子

卒塾期：2期

活動地域：岐阜市・中濃

連絡先：info\_kanibousai@tg.commufa.jp

## 楽しく・解りやすい防災啓発を！

私は、女性目線の防災を中心として、子どもから乳幼児の保護者、高齢者、外国人の皆さんなどを対象に、幅広く防災啓発活動を行っています。

子ども向けには、私が会長を務める「可児市防災の会」が発案した防災ゲームを使って、防災教室を行っています。体験した子ども達からは、子どもならではの質問が飛び出し、私たちが学ばされることも多いです。

乳幼児の保護者や高齢者に対しては、民生委員でもある立場を活かして、解りやすくお伝えしています。

令和5年8月には、岐阜県外国人活躍・共生社会推進課から依頼を受け、県が主催する「外国人防災リーダー研修」に講師として参加し、意見交換のファシリテーター等を務めました。

また、令和5年11月にも、可児市で開催された「防災街歩き」に講師として参加し、外国人防災リーダーの方と街を歩きながら、危険個所について一緒に考えました。

今後も、受講者目線で、解りやすく・楽しく・納得できる防災講座を開催しますので、ぜひお声がけください。



令和5年11月 外国人防災リーダー研修



# 防災コラム

#006



名前：二村 チズ子

活動地域：下呂市

卒塾期：3期

連絡先：yuinasyun@gmail.com

## 地域防災・減災を知る、学ぶ、伝える活動を続けて

私は、下呂市を中心に、防災士のスキルアップを目的とした研修会を企画しています。また、子どもから高齢者まで、幅広い層に向けた防災活動をしています。

元々は介護士の仕事をしていたが、東日本大震災をきっかけに、介護だけでは災害対策が不十分であることを痛感し、防災活動に興味を持ちました。

そこで、平成23年に防災士の資格を取得し、地域防災を学び、伝える啓発活動を始めました。

令和5年には、県高齢福祉課が主催する、高齢者施設での伴走型支援事業に参加しました。

施設関係者の皆様と、豪雨災害を想定した避難訓練を実施し、得られた気づきや発見について話し合い、一緒に避難確保計画を考えました。

話し合いの中で、避難開始のタイミングや、高齢者の負担軽減、要配慮者の対応方法など、隠れていた課題を発見し、対策することで、より実践的な計画を作成していただくことができました。

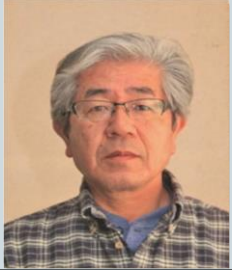
今後も、さらに多くの課題を解決するため、防災士の仲間たちと共に防災を学び、地域での防災啓発活動を続けていきます。



令和5年8月 伴走型支援事業（飛騨市）

# 防災コラム

#005



名前：岩茸 伸一

活動地域：飛騨地域

卒塾期：1期

連絡先：s.iwagoke@hidatakayama.ne.jp

## より安全な避難計画を。

私は平成26年に防災士を取得し、地域で防災の普及活動を行おうとしましたが、当時はそのような活動団体がなかったため、翌年に「高山市民防災研究会」を立ち上げました。

平成28年には、清流の国ぎふ防災・減災センターの「げんさい未来塾」に入塾し、1年間をかけて防災・減災活動のスキルを習得しました。

現在では、児童・生徒や地域町内会等、様々な団体に向けた防災の普及活動を行っています。

令和5年には、県高齢福祉課が主催する、高齢者施設での伴走型支援事業に参加しました。

下呂市にある「特別養護老人ホームあさぎりサニーランド」にて、避難確保計画をもとにした避難訓練を実施し、計画の見直しをお手伝いしました。

この施設は、大雨災害からの避難を実際に経験しており、職員の皆さんが危機意識を持っていたため、より実践的な訓練ができました。また、避難完了から逆算して、より安全なタイムラインを作成し、行政が発表する避難情報前でも行動を起こせる体制が取れるよう考えていただきました。



令和5年 伴走型支援事業（下呂市）

# 防災コラム

#004



名前：伊藤 三枝子

卒塾期：1期

活動地域：岐阜県全域

連絡先：joseibosai2017@gmail.com

## いろいろな方に届けたい防災活動 (多様性のある防災活動)

ひとたび災害が発生すると、あらゆる人が被害を受けます。

全ての人々が適切な防災知識を持ち、いざという時に、自分の身を守る行動に繋がっていただけるよう、女性の視点を踏まえ、地区防災組織、要配慮者、外国人の方々をはじめとした、様々な方々へ向けた防災活動を行っています。

その1つが、外国人の方々を対象とした防災啓発の取り組み。日本語に慣れていない外国人の方々には、災害情報が聞き取れず避難が遅れたり、避難所での食文化が異なる等、様々な問題を抱えています。

そこで昨年10月、岐阜県外国人活躍・共生社会推進課が主催する外国人防災リーダー研修において、「災害情報を知る方法や、避難所での生活について学んでみよう」をテーマに講座を開催。地震・水害が発生した場合に想定される問題、災害情報・避難情報の取得方法などについて、母国と日本との違いを対比させながら、オンラインで理解を深めました。

県内に住む外国の方々には、防災について改めて学んで頂けたことと思います。

これからも、あらゆる方々が「防災」を自ら考え、命を守るための行動を起こし、実践できる方がひとりでも多く増えるよう、活動を続けたいと思っています。お気軽にお声かけ下さい。



令和5年10月 外国人防災リーダー研修（オンライン）

# 防災コラム

#003



名前：伊藤 道廣

卒塾期：1期

活動地域：瑞浪市（東濃地域）

連絡先：wideroad\_x@yahoo.co.jp

## 様々な防災訓練を承ります！

私が所属する「みずなみ防災会」は、2013年に発足し、現在では100名余りの会員が活動しています。

地域や学校、企業など、様々な団体からの要請に基づき、年間で約50回の防災講話や災害図上訓練、屋外での初期消火、地震体験、パッククッキング、体育館を使用した避難所開設訓練などを行っています。

当会の強みは、市役所や消防署・消防団、社会福祉協議会、災害救援ボランティアなどと連携し、様々な要望に対応できることです。

今年はNHKや日経新聞などが主催する防災啓発活動にも協力しました。

令和5年11月には、岐阜県農政部からの要請を受け、瑞浪市では初となる「ため池災害図上訓練」を実施し、地域住民だけでなく、市職員や県職員にも訓練を体験していただきました。

訓練の対象地域は土岐川とため池に挟まれ、更には土砂災害が発生する危険性が高いことから、どのタイミングでどこへ避難するかを理解し、実践できるようにすることを目標に実施しました。

参加者からは、「地域の危険性がより理解でき、楽しかった。」との言葉をいただき、私たちの理念「楽しい防災訓練」が出来たとともに、私たちのスキルアップにも繋がる良い経験となりました。



令和5年11月 ため池災害図上訓練（瑞浪市）

# 防災コラム

#002



名前：足田 一男

卒塾期：2期

活動地域：羽島・岐阜

連絡先：bousai@sekitorikun.com

## 防災会との連携について

羽島の小熊地区に防災士による防災会を立ち上げ、自治会組織や小学校と共に、主に防災啓発活動をしています。小熊地区の皆さんの協力を得ながら、2年越しで地区防災計画の作成を行うことが出来ました。

また、時には他の地区へ出向き、拙い話を聞いて頂いております。

令和5年10月には、飛騨地区消防連絡協議会の消防防災研修会にて話をさせて頂く機会があり、小熊地区では防災会と自治会組織、消防団がどのように連携しながら活動をしているのかを話させて頂きました。

研修会の終了後には、話を聞いて下さった方々が、次々と質問に来られ、列を成す状態となりました。

ご相談の内容から、消防団の皆さんが、どのように地域と連携したら良いのかを苦慮されていることが、ひしひしと伝わってきます。

消防団を地域防災の核にしようと、国は法整備などを進めて来ましたが、現場では、暗中模索の日々が続いていることを実感しました。

今後もテーマに応じた話をさせて頂きますので、ご興味のある方はぜひご連絡ください。



令和5年10月 飛騨地区消防防災研修会の様子（下呂市）

# 防災コラム

#001



名前：山本 真紀

卒塾期：6期

活動地域：飛騨圏域

連絡先：blackdoglab3@icloud.com

## 自分サイズの「防災・減災」に取り組んでみませんか？

私は現在、地域・生活環境・年代に応じた取組みの提案やワークショップ運営のサポートなどの啓発活動をしています。

このきっかけは、平成30年7月豪雨災害で、避難所運営のお手伝いをしたこと。この時に地域防災の大切さを痛感しました。また、重度障がいのある息子への対応など、本当にわからないことばかりで、このままでは「だしかん」（このままではいけない）と思い立ち、防災について学び、啓発活動を始めました。

私が講師を担当した美濃地区での講座では、「参加者が自分事として考えられる仕掛けづくり」として、子どもから年配の方まで、その世代にあわせたワークショップの方法や、伝え方を説明しました。

これからも「防災」を身近な「自分事」として捉え、自ら考え、行動する方がひとりでも多く増えるよう楽しい啓発活動を続けていきたいと思っています。

**こんな時、お声がけください！**

- ①地域での各種防災学習会
  - ②小中学・特別支援学校の防災教室
  - ③地区防災計画作成ワークショップ
- ご希望に合わせた内容で実施します。**



令和5年7月 地域づくり型生涯学習講座（美濃地区）